

沖縄本島から西へ約100キロ、
東シナ海に浮かぶ久米島にやってきた母と娘。
2人にとって初めての沖縄だ。
かわいい水着の入った小さなスーツケース。
帽子は、夏の沖縄の旅の必需品。
久米島空港に降り立った2人を、
キラキラとまぶしい日差しが出迎えてくれた。
さて、どんな親子旅行になるのかな？



母、中田ひとみさんは、東京都出身・東京在住の編集者兼ライター。企業ものや技術系、インタビュー記事など幅広く携わる。娘のりんちゃんは5歳。ごっこ遊びとぬり絵が大好きな元気でおしゃれな保育園児だ。今回お父さんはお留守番。

今回、久米島を
旅した親子→



感動・発見・夢中の旅

親子で 楽しむ 久米島

特集



✎中田ひとみ ✎垂見健吾
✎ママ宮城圭吾、知念真希子、串崎のえ
✎スタイリング嘉陽和美

「ひこうきさんパイパイ」
飛行機に手を振って那覇空港に降り立った娘は5歳になったばかり。空港内を歩けば、「うわあ、いいなおい」と通路の端に並んだランの花々に突進。
「ここは、おはなのくうこうだ
ね」と母の顔を見上げてニンマリする。すでに興奮剤メーカーの針が振られているようだ。
正直なところ、わが家は私も夫も出不精。その上、仕事がいもソガシイ、時間がナイ、お金もナイのナイナイづくし。遠出といっても、行き慣れた夫の故郷に向かうため、混んだ高速道路に乗っかるくらい。いいの、いいの、わざわざ旅行に出なくていいの、わざわざ旅行に出なくていいの、近くの公園におにぎりを持って出かけるだけでも十分に遊べる。

だけと、初・飛行機、初・沖縄、初・本格的な親子旅行で、身も心も弾んでいる様子を見ていると、やっぱり、遠くへ旅に出るって違うんだなと思わせるを得ない。……だって、母も弾んじゃっていますから。恥ずかしながら、私も初沖縄、初・久米島、初・南の島の旅、何が起ころるか、ワクワクだ。
「みて、みて、きょうりゅうのしまだよ」
那覇から約30分、飛行機が久米島上空にさしかかった。サングラスに囲まれ、白いリーフが細長く伸びた久米島は、娘の目から見たら恐竜らしい。
「あれが、これから行く久米島だね」

「くめじまさん、コンニチハ！」